

札幌社保協 FAXニュース

2009年 6月29日(月)
社保協事務局 発行
TEL823-0867 Fax821-3701
E-mail:s-syaho@kin-ikyo.or.jp
http://www.sapporo-syahokyo.jp/

次回の国保・介護・
後期高齢者110番は
7月30日(木)です。

総選挙で生存権・社会保障を守り発展 させる政治へ転換を!

第12回札幌社保協総会を開催



札幌社保協は、第12回定期総会を6月25日市内で開催し、加入団体・地域社保協から40人の代表が参加しました。来賓には道社保協のほか、SOSネットワーク北海道の小室道労連事務局長が出席し、派遣切りにあった労働者等への支援活動が多くの団体の協力で進んでいること、労働者から高齢者まで貧困の広がりが増大していることを紹介し、7月7日に大通西10丁目で開催予定の街頭相談会・派遣村への協力を訴えました。

総会では結成10周年を迎えた札幌社保協が、札幌の民主運動で大きな役割を果たしていることが報告や討論で示されました。

【各区社保協から】北区からは生活保護を受付ける点は運動の成果でよくなったが、仕事がないのに仕事につくと迫られ打ち切られるケースの事例、西区はホームレスパトロールを早朝に取り組んだ経験と区交渉のこと、東区は国保・介護110番でもう払えないという悲鳴に近い相談者の声を紹介、豊平は毎月定例の会議をしながら後期高齢者廃止の宣伝行動などに取り組んでいる経験、南区は長く活動が休止状態だったが、各団体で話し合い、宣伝活動を行うなど活動を再開したことなどが報告されました。

【各団体から】勤医協在宅からは介護認定制度の改悪について、新婦人からは子育て世代の貧困、妊婦健診の充実、ヒブワクチンの無料化の運動、勤医協からはお金がないために医療を受けられないという人が急増し、無料・低額診療制度を利用する人が増えていること、地区労連はまともな給与がもらえず生活できない労働者、生活保護基準以下の収入の労働者が増えている実態が報告されました。



坂本恭子共産党市議は、この間経済生活対策の要望、生活保護母子加算復活、保育所の待機児童解消・超過入所対策の申し入れなどをしてきたこと、17政令市が国に対し生活保護制度の改悪提案を出していることなどを報告しました。

選挙で政治の転換を図ろう!

総会では①反貧困・生存権守れの運動強化、支援活動の取り組み、②社会保障改善・消費税増税反対、総選挙で政治の転換を、③後期高齢者医療廃止、地域医療を守る、介護保険10年の検証運動、④住民負担増に対抗する運動強化、⑤自治体の福祉制度後退反対、⑥社保協の強化、を柱とした運動方針案を確認しました。主な役員には代表に高崎裕子弁護士、諏訪田秀樹地区労連副議長、堀毛清史勤医協理事長、佐藤宏和道生連事務局長(いずれも再任)と斉藤浩司事務局長(勤医協、再)を選出しました。

貧困大国を変える運動を! ～西区社保協が活動交流集会～

6月17日(水)西区社保協の活動交流会が行われ18名が参加して活動の交流を行い情勢を深めました。基調報告は、道労連の小室正範さんより「貧困大国を変える」光に!と題して5ヶ月目に入るSOSネットワークの取り組みから、1000件を超える電話相談から見える深刻な貧困・格差の実態の告発がされました。一方で手を差しのべようというあたたかい連帯のネットワークが広がり、この間の運動が行政を動かし、力を合わせれば情勢を変えていける、希望の光につながる状況も運動で作りに出ているという報告があり、元気が出る報告でした。



参加者から、はたらく人が大切にされていない状況の告発(介護施設)、医療、生活相談が増え、生活の不安が広がっていること(医療機関)が報告されました。困難な状況の中でも励ましあい、ネットワークを広げているようすが報告され、交流を深めました(年金者組合・民商・新婦人)。引き続き見回りパトロールや、区へ提出した要望書で交渉を行い(6/30実施)できるところから運動を進めることを確認しあいました。